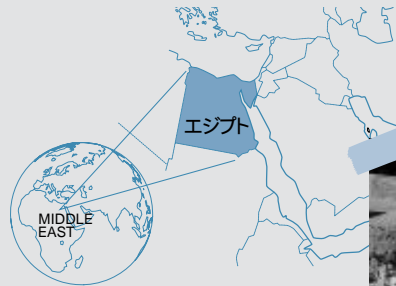


from Egypt



各国の隊員が協力して作った「保育アイデア集」。日本語とアラビア語が併記されている

隊員手作りの絵本や教材が紹介され、参加者は夢中になって体験した



裏付けられた。一方で、25人の隊員たちは2年越しの懸案だった自らの課題に対する取り組み結果を発表し、成功と失敗の原因を議論した。失敗例には活動目標が現地の習慣になじまないことなどが挙げられた。真剣な討論が4時間以上にわたってなされ、活動指針を後任のためにもまとめ上げた。また新聞社やテレビ局など複数の

盛り込まれたかわい保育テキストである。実技講習の時間は隊員と同僚の保育士がテキストから教材を選んて実演し、セミナー後には、参加者が地域でほかの保育士たちと遊びを促められるようにと複数配布された。

エジプトではこの10年間、個々のボランティアがこつこつと積み上げてきた活動が認められ、今回のようなセミナーを実現することができた。

このセミナーが中央省庁

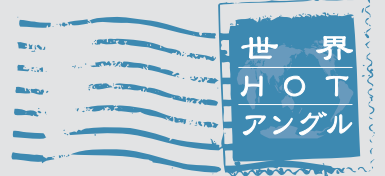
を動かしたことで支局長会議でのプレゼンテーションにつながり、その結果、全国28県の支局から多くの隊員派遣要請がJICAに届いた。偶然にもJICAでは、ボランティア派遣事業の見直しが行われ、評価が進んでいる。エジプト側が保育士隊員の受け入れを組織的に行おうとしている今、JICAの見直し方向と一致させ、今後、中東地域の乳幼児教育が進展していくために、具体的な目標や派遣計画を定めていかなければならないと考えている。



ナイル教育テレビの取材を受け、活動目標や内容などを答えるイエメンの隊員

Hot Angle Country Egypt

文=藤元直樹 (JICAエジプト事務所 フィールド調整員)
写真提供: JICAエジプト事務所



子どもに情操教育を

～保育士などを対象にした乳幼児教育セミナー開催

中東4カ国の乳幼児教育関係者のために、情報交換と日本の乳幼児教育のノウハウを伝えるセミナーがエジプトで開催された。新たな政策展開を模索する政府関係者ばかりでなく、保育園職員にとっても、子どもとの接し方を学ぶ絶好の場となった。新聞社やテレビ局も取材に入り、特別番組が放映された。



3日目、視察先の保育園で情操教育の内容や過程などについて質問するシリアの隊員

2006年6月5日から3日間、シリア・ヨルダン・イエメン・エジプトの中東各地から政府関係者や保育士など70人の乳幼児教育関係者が、青年海外協力隊25人とともに「JICA中東乳幼児教育広域研修(以下セミナー)」に参加した。このセミナーは、04年に保育士隊員が活動上の問題を出し合い、問題点を保健衛生・教室運営・政策・宗教文化の4分野にまとめたシリア会議に始まる。翌年、ヨルダンで行った会議にはモロッコで活動する隊員も加わり、それぞれの状況に合った

問題の対処方法を考え出した。そして今回、これらの総決算として、隊員が保育園や幼稚園で日々訴えている諸問題や情操教育の大切さを同僚の保育士に伝え、さらに中東各国間の情報交換を通してJICAの活動の意義を政府関係者に理解してもらおうとセミナーが開催された。アリモセルヒ・エジプト社会連帯省大臣の祝辞、岡本茂・JICAエジプト事務所の歓迎あいさつで幕を開けたセミナーは、2つの講演、2カ所の視察、討論、実技講習という日程でカイトとその周辺で行われた。

初日、小児科医でアインシャムス大学のメドハット教授の講演では、衛生と健康面から乳幼児の発達に必要な教育環境について話され、2日目にカイロ大学幼児教育学部を視察した際は、遊具や工作材料、マジックミラーの付いたプレイルームなど子どもも保育環境に必要な具体例が示された。初日と2日目の午後は、保育園や幼稚園でできる遊びの数が紹介され、参加者たちも体験。輪になって踊り歌ったり、一緒に手遊びをしたり、絵本紹介に夢中になったりと、まさに遊びを通して、教授技術や教室運営を学ぶ機会となった。



部屋飾りにも遊具にもなるペーパーボールを作る参加者たち。遊びを通して学ぶことの大切さを知った